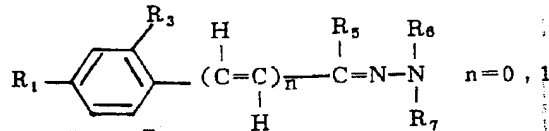


3

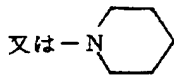
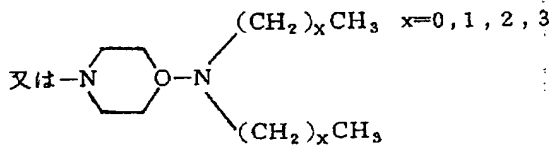
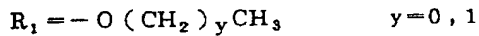
であり、更に重合体結合剤を有し、電荷発生層に於ける光電現象によつて発生された正孔を電荷輸送層の中を輸送して、材料の帯電面の局地的な選択的な放電をし易くした電子写真材料。

発明の詳細な説明

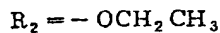
この発明は電子写真材料、特に下記の組成



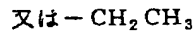
但し



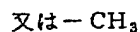
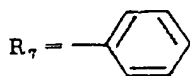
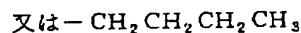
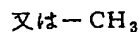
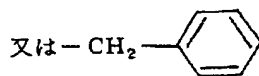
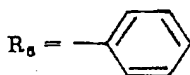
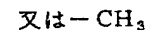
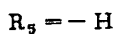
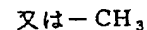
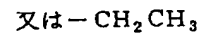
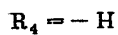
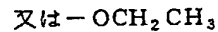
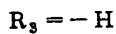
又は-H



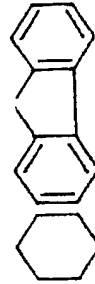
又は-CH₃



又は-H



4



5 R₆及びR₇=

10 のヒドラゾン材料を多重層光導電系のp形電荷輸送層の活性材料として用いた電子写真材料に関する。

ゼログラフイの様な電子写真方法並びにその材料は勿論周知である。こういう方法は基本的には

15 暗い状態の下で通常絶縁性の板又は部材の上に一樣な静電荷を形成する。その後、部材を像に応じて光に露出し、光の当つた部材の部分を導電性にして、静電荷を部材の表面から伝導する様にする。

この為、光の当らなかつた表面部分に帯電表面区

20 域の形で潜像が形成される。次に部材の表面上の静電潜像を反対の極性に帯電した粉末、即ちトナーに露出することによつて現像することが典型的である。このトナーは、トナーと反対の電荷との

親和力により、部材の帯電面に吸着される。部材

25 の放電部分はトナーに対するこの様な親和力が全くない。こうして形成されたトナー像を紙の様な別の面に転写し、例えばトナーと混合した感圧性、感熱性等の接着剤によつてそれに接着する。

特に有用な電子写真部材は、化学放射に应答し

30 て電子と正孔の対を発生する電荷発生法をそれに隣接するp形電荷輸送層と共に用いたものである。選ばれた化学放射に应答する数多くの電荷発生層が知られている。電荷輸送層は動作状態では化学放射に应答せず、電荷発生層からの正の電荷を、

35 使う特定の系に応じて、像が形成された負に帯電した輸送層の表面か、或いはその代りに正に帯電する系では導体に輸送するのに役立つ。米国特許第3837851号には、電荷輸送層内の活性材料として、トリアリール・ピラゾリン化合物を用

いた電子写真プレートが記載されている。

この発明の対象とするものとは性質の異なるヒ

ドラゾンが主に化学放射に应答する材料として光

導電体に使われて来た。米国特許第3717462号には、ヒドラゾン化合物のこういう使い方が記

40

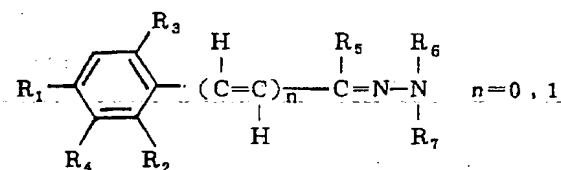
載されている。

5

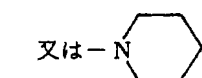
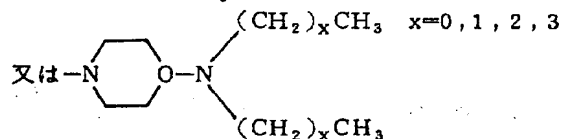
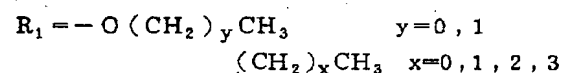
載されている。この他のヒドラゾン化合物の同様な使い方が米国特許第3765884号に一般的に記載されている。

要約すれば、従来でも、離れた電荷発生層と共に電荷輸送層を使うことは知られていたが、電荷輸送層の中の活性材料として、一般的にヒドラゾン、特にこの発明のヒドラゾンを使うことを記載したものはない。他方、この発明の特定のヒドラゾンとは異なるヒドラゾンが、電荷輸送材料とは対照的に、光応答材料として使われてきた。

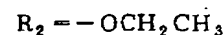
この発明は、多重層電子写真部材に従来得られなかつた驚くべき改良をもたらすものであるが、この電子写真部材は、導体と、大体普通通りの電荷発生層と、活性材料として下記の化学式



但し



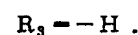
又は-H



又は-CH₃

又は-CH₂CH₃

又は-H

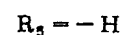


又は-OCH₂CH₃

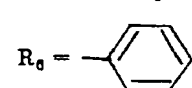


又は-CH₂CH₃

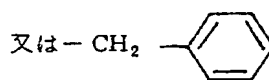
又は-CH₃



又は-CH₃

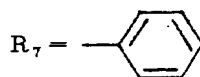


6

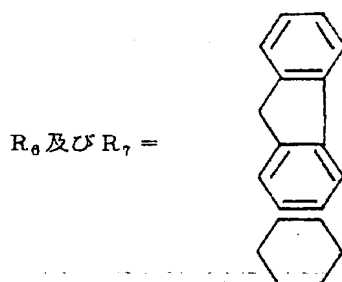


又は-CH₃

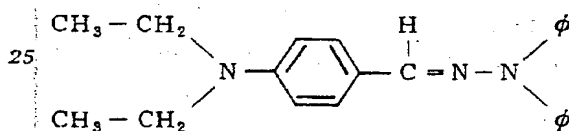
又は-CH₂CH₂CH₂CH₃



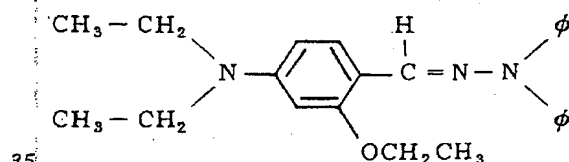
又は-CH₃



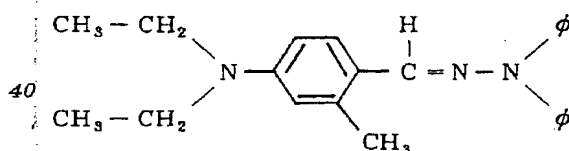
を持つヒドラゾンを含む、電荷発生層に隣接した新規なp形電荷輸送層とを基本的な部分とする。特に好ましい電荷輸送材料はp-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)である。即ち、



他の好ましい電荷輸送材料は、O-エトキシ-p-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)、即ち

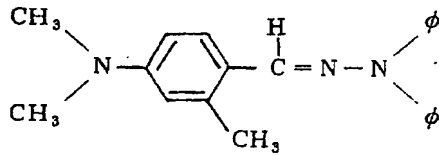


O-メチル-p-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)、即ち

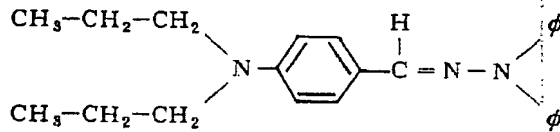


O-メチル-ジメチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)、即ち

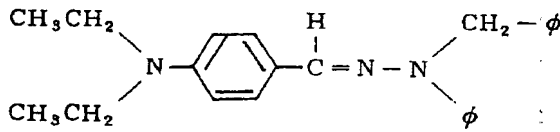
7



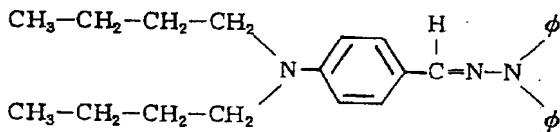
p-ジプロピルアミノベンズアルデヒド- (ジフェニルヒドラゾン)、即ち



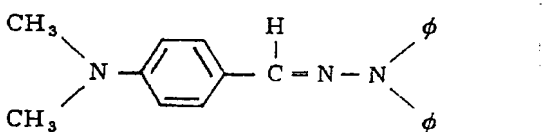
p-ジエチルアミノベンズアルデヒド- (ベンジルフエニルヒドラゾン)、即ち



p-ジブチルアミノベンズアルデヒド- (ジフェニルヒドラゾン)、即ち



p-ジメチルアミノベンズアルデヒド- (ジフェニルヒドラゾン)、即ち



である。

一般的に多重層電子写真部材は公知である。電荷発生層は有機又は無機のいずれであつてもよいが、それに入射する化学反応に应答して、電子と正孔の対を発生する。電荷支持層は自己支持であつてよいが、金属面を持つ重合体被覆の様な柔軟な支持体を使うことが望ましい。2軸配向のポリエチレン・テレフタレートが好ましい柔軟な支持体である。前に述べた様に、電荷発生層は、部材の選択的な放電をし易くする為に、導体と電氣的に連絡していなければならない。やはりこの発明の好ましい一つの面について言うと、アルミ化マイラー (ポリエチレン・テレフタレート被膜) を使うのが便利であり、アルミニウムが導電層を構成する。電荷発生層は支持体の上に、導電層と接

8

触させて形成することが好ましい。微妙ではないが、電荷発生層は一般的に厚さが0.05乃至

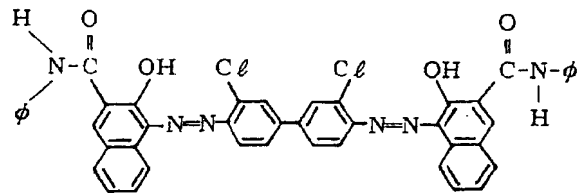
0.20ミクロンである。無機の電荷発生材料としては、セレン、テルル及び周期律表のⅡb族及び

- 5 VIa族の化合物、即ちスルホ・セレン化合物がある。有機の電荷発生材料として、シアニン化合物、ビスアゾ化合物又はフタロシアニン化合物が一般的に使える。スクアリツク・アシッド (squaric acid) から導いたメチン染料で構成される電荷発生材料を用いて有益な結果が得られる。

クロロジアン・ブルー、メチル・スクアリウム及びヒドロキシ・スクアリウムが特に好ましい電荷発生材料である。

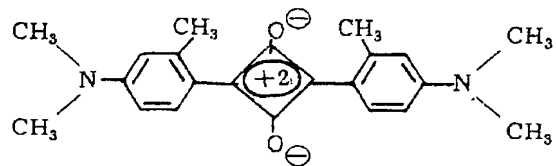
更に具体的に言うと、こういう好ましい材料は、

- 15 4-4''-[(3,3'-ジクロロ-4,4'-ビフェニレン)ビス(アゾ)]-ビス3-ヒドロキシ-2-ナフタリニド、即ち



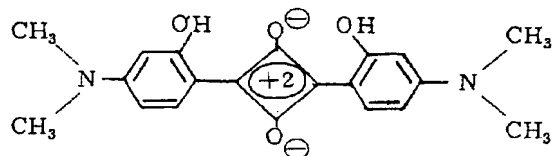
- 2,4-ビス-(2-メチル-4-ジメチルアミノフェニル)-1,3-シクロブタジエンジイリウム-1,3-ジオレート、即ち

- 25



- 2,4-ビス-(2-ヒドロキシ-4-ジメチルアミノフェニル)-1,3-シクロブタジエンジイリウム-1,3-ジオレート、即ち

- 35



であるが、以下これらを夫々クロロジアン・ブルー、メチル・スクアリウム及びヒドロキシ・スクアリウムと呼ぶ。

まとめて言えば、広範囲の無機及び有機電荷発

10

$$\text{又は } \begin{array}{c} \text{---N---} \\ | \\ \text{O---N---} \\ | \end{array} \begin{array}{l} (\text{CH}_2)_x\text{CH}_3 \\ (\text{CH}_2)_x\text{CH}_3 \end{array} \quad x=0, 1, 2, 3$$

又は-N

$$R_2 = -OCH_2CH_3$$


又は $-\text{CH}_2\text{CH}_3$

$$R_3 = -H$$
$$R_4 = -H$$

又は $-\text{CH}_3$


又は $-\text{CH}_3$

$$R_6 = \text{—C}_6\text{H}_5$$


25 又は $-\text{CH}_2-$ 


又は $-\text{CH}_3$

又は $-\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_3$

30 $R_7 =$ 

又は $-\text{CH}_3$

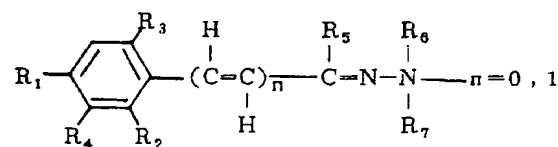
35 R_6 及 R_7 = 

40 

$$R_6 \text{ 及び } R_7 =$$

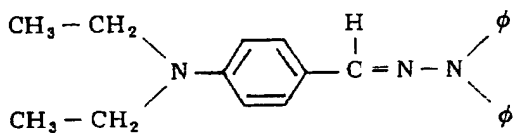
この発明の新規な電荷輸送層は一番上の層又は露出層を形成する様に、電荷発生層の上に被覆することが好ましい。電荷輸送層の厚さは7乃至35ミクロンであることが好ましいが、これより厚手であつてもよく、7ミクロンより薄くても、即ち厚さが5ミクロンでも作用する。以下の説明はこの好ましい実施例の場合を主に扱うが、正の帯電系については、電荷輸送層を図面に示す様に、また後で説明する様に、電荷発生層と支持体との間に介在配置することが出来ることを承知された

この発明の p 形電荷輸送層の活性材料は、下記の層の構成を持つヒドラゾンである。

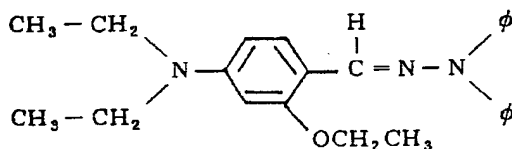

$$R_1 = -O(CH_2)_yCH_3 \quad y = 0, 1$$

特に好ましい電荷輸送材料は p-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）である。即ち

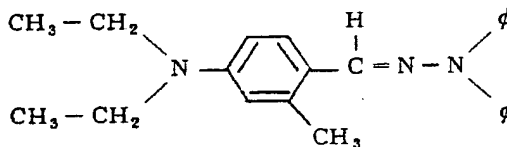
11



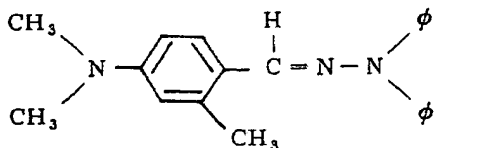
この他の好ましい電荷輸送材料はO-エトキシ-
p-ジエチルアミノベンズアルデヒド- (ジフェ
ニルヒドラゾン)、即ち



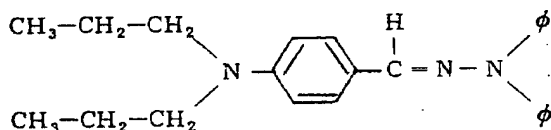
O-メチル-p-ジエチルアミノベンズアルデ
ヒド- (ジフェニルヒドラゾン)、即ち



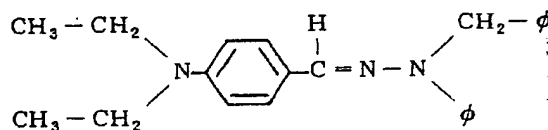
O-メチル-p-ジメチルアミノベンズアルデ
ヒド- (ジフェニルヒドラゾン)、即ち



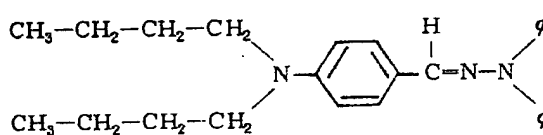
p-ジプロピルアミノベンズアルデヒド- (ジ
フェニルヒドラゾン)、即ち



p-ジエチルアミノベンズアルデヒド- (ベン
ジルフエニルヒドラゾン)、即ち

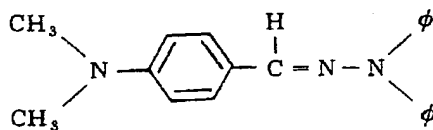


p-ジブチルアミノベンズアルデヒド- (ジ
フェニルヒドラゾン)、即ち



12

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド- (ジ
フェニルヒドラゾン)、即ち



である。使う時、ヒドラゾン材料を有機溶媒中
で結合剤と混合し、電荷発生層の上に被覆し、強制
空気オープンの中で乾燥する。当業者には種々の
重合体結合剤が考えられようが、典型的な結合剤
としては、ポリカーボネート樹脂、即ちモベ
ケミカル・カンパニから入手し得るM-60、グ
ツトイヤーから入手し得るPE-200の様なポ
リエステル樹脂及びローム・アンド・ハースから
入手し得るA-11の様なアクリル樹脂がある。
他の種々の樹脂も以下挙げる様に作用し得る。こ
れらの樹脂は、単独で使つても組合せて使つても
よいが、有機の溶媒(1種類又はそれ以上)、好
ましくはテトラヒドロフラン及びトルエンと混合
されるが、この他の適用な溶媒も当業者には容易
に考えられよう。

当業者に自明の目的を達成する為に、潤滑、安
定性、接着力増強、被覆性等の他の種々の成
分を電荷輸送層に含めることが出来る。例えば、
ダウ・コーニングからDC-200の商品名で入
手し得る様なシリコン・オイルが電荷輸送層の
溶液内に含まれる。

次に図面について説明するが、図面全体にわ
たり、同様な構成要素並びに成分は同じ参照数字
で表わしてある。第1図に多重層電子写真部材10
が示されている。

部材10は電荷発生層12及び電荷輸送層14
を含む。図示の様に、電荷輸送層14の表面に負
の電荷が存在する。電荷発生層12の近くに、即
ち導電層(図に示していない)に正の電荷が加え
られる。化学放射16が区域18で電荷輸送層
14を通過し、電荷発生層12に電子と正孔の対
の電荷を発生させる様に誘発することが示されて
いる。正孔が電荷輸送層14の表面にある負の電
荷に引寄せられる。この為、第2図に示す様に、
正孔が電荷輸送層14に注入され、その中を移動
して区域18を放電させる。電荷輸送層14は実
質的に負の電荷に対して絶縁材料である。この為、
区域18に局地的な放電があるにとどまる。勿論、

13

電子は導電層（図に示していない）にある正の電荷に引寄せられる。

第3図及び第4図でも同様な結果が示されている。然し、部材10'は同じ層を含むが、構成が異なる。電荷発生層12は正に帯電し、化学放射16に直接的に露出される。電荷輸送層14が電荷発生層12と、普通は導電層（図に示していない）に担持される負の電荷との間に介在配置される。この場合も化学放射16が電子と正孔の対の電荷を発生する。電荷発生層12の区域18が電子によつて放電させられ、対応する正孔が、負の電荷の引力にตอบสนองして、電荷輸送層14の中を通過する。部材10'は、化学放射16が電荷輸送層14を通過しなくてもよいという利点があるが、電荷発生層12は保護されない。

この他の実施例も考えられるが、図には示していない。例えば、第1図の部材10は、反対側から即ち導電性を介して化学放射に露出してもよい。

この発明の好ましい実施例を当業者が実施することが出来る様に、並びにこの発明の他に使える変形を例示する為に、以下例を挙げるが、ここに挙げる例は作用し得る全ての組合せを網羅するものではなく、或いは当業者に明白な種々のこの代りの構成要素を特定するものではない。

例 1

この発明に適切な支持体を調製する為、アルミ化マイラ（ポリエチレン・テレフタレート（ジュポン社の商標）の基板を、-9対1の比（固体重量%で0.7%対1.4%）のテトラヒドロフラン・トルエン溶媒系に溶解したポリエステル樹脂（グツトイヤーから入手し得るPE200）の溶液で被覆した。ポリエステル被覆はメニスカス被覆にし、強制空気オープン内で乾燥した。次にエチレンジアミン、*n*-ブチルアミン及びテトラヒドロフランの重量比1.2対1.0対2.2の混合物の中にクロロジアン・ブルー（固体重量0.73%）を溶解した。次にクロロジアン・ブルーに対して2.3重量%の量のシリコン・オイル（ダウ・コーニングからDC-200の商品名で入手し得る）を添加した。こうして得られた溶液をポリエステル被覆の基板にメニスカス被覆し、この結果得られた被覆基板を強制空気オープン中で乾燥した。こうして割合普通通りのクロロジアン・ブルーの電荷発生層がやはり普通のポリエステル支持体の上に作

14

られた。

この発明の新規な電荷輸送層を形成する為、ポリカーボネート樹脂結合剤（モベール・ケミカル・カンパニから入手し得るM-60）7.6グラム、ポリエステル樹脂（グツトイヤーから入手し得るPE-200）3.60グラム及びアクリル樹脂（ローム・アンド・ハースから入手し得るA-11）2.25グラムをテトラヒドロフラン及びトルエン溶媒8.5グラム中で混合した。溶媒の重量比は約9対1である。次にこの発明の好ましいドラゾン、即ち*p*-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）9.0グラムをシリコン・オイル（DC-200）0.02グラムと共に添加した。選ばれた被覆方法に適切になる様に、粘度を調節する為、この後付加的なテトラヒドロフランを添加することが出来る。今の例では、こうして得られた溶液を上記述べた様にして形成された電荷発生層の上にメニスカス被覆し、被膜全体を強制空気オープン中で再び乾燥して、多重層電子写真部材を形成した。この電子写真部材を試験する為、最初のその表面を暗所で-870ボルトに充電し、帯電した電子写真部材を商業的な電子写真装置に典型的に用いられる様な光に対し、光強度の種々の状態で露出し、この状態に454ミリ秒おいた後、部材を-150ボルトの電圧まで放電させるのに必要な光強度を測定した。この例の部材は、この放電に1.10マイクロジュール/cm²を必要とすることが判つた。この値は正孔の輸送がすぐれていることを表わす。この例と略同一の電子写真部材を商業用に設計された複写機で試験した結果、電荷の輸送、トナーの膜化に対する抵抗力、物理的な耐疲労性、電気的及び物理的な特性の長期安定性、及び低温動作の点で、すぐれた結果が得られた。

例 2 a乃至2 f

輸送層の樹脂を変え、その量も変えて、例1と同様な多重層電子写真部材を調製した。

結合剤樹脂

例	M-60 (グラム)	PE-200 (グラム)	A-11 (グラム)
2 a	13.5	0	0
2 b	0	13.5	0
2 c	9.0	2.25	2.25

例	15		
	M-60 (グラム)	PE-200 (グラム)	A-11 (グラム)
2 d	10.12	2.25	1.13
2 e	9.90	3.60	0
2 f	7.65	2.25	3.60

例1に述べた様な試験により、下記の結果が得られた。

例	放電応答 時間 (ミリ秒)	暗所電圧	放電電圧	露 出 (マイクロ ジュール/cm ²)
2 a	454	-870	-150	1.38
2 b	454	-870	-150	1.34
2 c	454	-870	-150	1.10
2 d	454	-870	-150	5
2 e	454	-870	-150	1.10
2 f	454	-870	-150	1.03

例 3

唯一の結合剤としてのアクリル樹脂(A-11) 14.5グラム p-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン) 14.5グラムを含む輸送層溶液を使う他は、例1と同様にして、多重層電子写真部材を調製した。例1に述べた様に試験したところ、部材を-870ボルトの暗所電圧から-150ボルトまで、454ミリ秒の放電応答時間で放電させるのに、3.0マイクロジュール/cm²の光エネルギーが必要であつた。

例 4

使つたアクリル樹脂が、アクリル樹脂A-11ではなく、ローム・アンド・ハースから入手し得る特許権の設定された樹脂であるB-50であることを別にすれば、例1と同様にして多重層電子写真部材を調製した。例1に述べた様に試験したところ、部材を-870ボルトの暗所電圧から-150ボルトまで、454ミリ秒の放電応答時間で放電させるのに、1.16マイクロジュール/cm²の光エネルギーが必要であつた。

例 5 a乃至5 e

ポリエステル樹脂PE-200の代りに、同じ量であるが、下記のポリエステル樹脂を使う他は、例2 eと同様な多重層電子写真部材を調製した。

例	ポリエステル
5 a	PE222 (グツドイヤー)
5 b	49000 (ジユボン)

例	ポリエステル
5 c	PE207 (グツドイヤー)
5 d	VPE5545 (グツドイヤー)
5 e	PE307 (グツドイヤー)

いずれの場合も、例2と略同様な結果が得られた。

例 6 a乃至6 k

最初の接着剤被覆をポリエステル(PE-200)の代りに下記の樹脂を同量使つて調製する他は、例1と同様に多重層電子写真部材を調製した。各部の部材は-870ボルトまで充電し、146ミリ秒で-150ボルトまで放電させた。下記の光エネルギー(マイクロジュール/cm²単位)が必要であつた。

例	商品名	樹脂	露出エネルギー
6 a	PE-222	ポリエステル	1.14
6 b	PE-207	ポリエステル	1.28
6 c	49000	ポリエステル	1.28
6 d	A-11	アクリル	1.34
6 e	B-66	アクリル	1.51
6 f	M-60	ポリカーボネート	1.48
6 g		ポリスルホン	1.36
6 h	15195S	ホルムバール	1.28
6 i	B-72A	ブトバール	1.22
6 j	PE-76	ホルムバール	1.26
6 k		ポリビニル・カルバゾール	1.23

例 7 a及び7 b

例7 aでは、輸送層溶液に p-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン) 5.78グラムを使い、例7 bでは、同様にその7.2グラムを使つた他は、例2 eと同様に多重層電子写真部材を調製した。例1と同じ放電電圧及び放電応答時間で試験したところ、例7 aの部材は1.4マイクロジュール/cm²の光エネルギーを必要とし、例7 bの部材は1.3マイクロジュール/cm²の光エネルギーを必要とすることが判つた。

例 8

電荷輸送層溶液に13.5グラムの p-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)を使う他は、例2 aと同様に多重層電子写真部材を調製した。例1と同じ様に試験したところ部材を-870ボルトの暗所電圧から-150ボ

17

ルトまで、146ミリ秒の放電応答時間で放電させるのに、1.37マイクロジュール/cmの光エネルギーが必要であつた。

例 9

電荷輸送層溶液に20.25グラムのp-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）を使つた他は、例2aと同様に多重層電子写真部材を調製した。例1に述べる様に試験したところ、部材を-870ボルトの暗所電圧から-150ボルトまで、146ミリ秒の放電応答時間で放電させるのに、1.37マイクロジュール/cmの光エネルギーが必要であつた。

例 10 a乃至10 d

電荷輸送層溶液に下記の別のヒドラゾン化合物を同量使う他は、例2aと同様にして多重層電子写真部材を調製した。

例

- 10 a O-メチル-p-ジメチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）
 10 b O-エトキシ-p-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）
 10 c O-メチル-p-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）
 10 d p-ジメチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）

下記の結果が得られた。

例	放電応答時間 (ミリ秒)	暗所電圧	放電電圧	露出エネルギー (マイクロジュール/cm)
10a	146	-800	-190	1.71
10b	146	-800	-190	1.24
10c	146	-800	-190	1.64
10d	146	-800	-190	1.65

例 11 a乃至11 c

13.5グラムの下記のヒドラゾンを輸送層溶液に使う他は、例2aと同様にして多重層電子写真部材を調製した。

例

- 11 a O-メチル-p-ジメチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）
 11 b O-エトキシ-p-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）
 11 c O-メチル-p-ジエチルアミノベンズ

18

アルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）

下記の結果が得られた。

例	放電応答時間 (ミリ秒)	暗所電圧	放電電圧	露出エネルギー (マイクロジュール/cm)
11a	146	-870	-150	1.56
11b	146	-870	-150	1.21
11c	146	-870	-150	1.60

例 12 a乃至12 c

輸送層溶液が6.75グラムのポリエステル樹脂（PE-200）、6.75グラムのポリカーボネート樹脂（M-60）及び13.5グラムの下記のヒドラゾン化合物を含む他は、例1と同様にして多重層電子写真部材を調製した。

例

- 12 a p-ジメチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）
 12 b p-ジプロピルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）
 12 c p-ジブチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）

下記の結果が得られた。

例	放電応答時間 (ミリ秒)	暗所電圧	放電電圧	露出エネルギー (マイクロジュール/cm)
12a	146	-800	-190	1.81
12b	146	-800	-190	0.92
12c	146	-800	-190	1.51

例 13

例1と全般的に同様に、1ミリリットルのエチレンジアミン、5ミリリットルのプロピルアミン及び24ミリリットルのテトラヒドロフランの溶媒混合物中の1グラムのヒドロキシ、スクアリウムをアルミ化ポリエステル基板（マイラー）の上にメニスカス被覆し、電荷発生層を形成して乾燥した。この被覆した支持体の上に、テトラヒドロフラン及びトルエンの9対1の混合物中に溶解した8.12グラムのポリカーボネート樹脂（M-60）及び8.12グラムのp-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）の溶液をメニスカス被覆して、この発明の新規な輸送層を形成し、乾燥して多重層電子写真部材を形成

19

した。例1に述べた様に試験したところ、部材を-870ボルトの暗所電圧から-150ボルトまで、146ミリ秒の放電応答時間で放電させるのに、1.40マイクロジュール/cmの光エネルギーが必要であつた。

例 14

輸送層溶液に0-エトキシ-p-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）を使つた他は、例13と同様にして多重層電子写真部材を調製した。例1に述べた様に試験したところ、部材を-870ボルトの暗所電圧から-150ボルトまで、146ミリ秒の放電応答時間で放電させるのに、1.02マイクロジュール/cmの光エネルギーが必要であつた。

例 15

電荷発生層溶液が0.85グラムのヒドロキシ・スクアリウム及び0.15グラムのメチル・スクアリウムを含む他は、例13と同様に、多重層電子写真部材を調製した。例1に述べた様に試験したところ、部材を-870ボルトの暗所電圧から-150ボルトまで、146ミリ秒の放電応答時間で放電させるのに、0.86マイクロジュール/cmの光エネルギーが必要であつた。

例 16

電荷発生層溶液が0.85グラムのヒドロキシ・スクアリウム及び0.15グラムのメチル・スクアリウムを含み、電荷輸送層溶液が8.12グラムのポリカーボネート樹脂（M-60）及び5.42グラムのp-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）を含む他は、例13と同様にして、多重層電子写真部材を調製した。例1に述べるように試験したところ、部材を-870ボルトの暗所電圧から-150ボルトまで、146ミリ秒の放電応答時間で放電させるのに、1.10マイクロジュール/cmの光エネルギーが必要であつた。

例 17

電荷発生層（真空蒸着のセレン及びテルルで形成した）の上に、6.75グラムのポリエステル樹

20

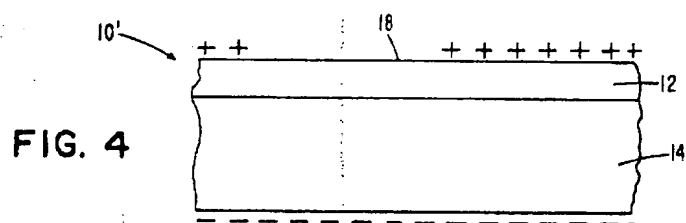
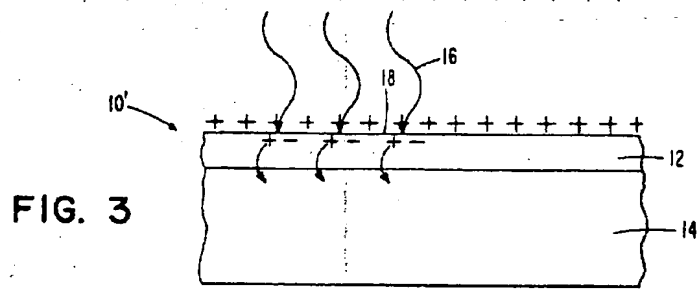
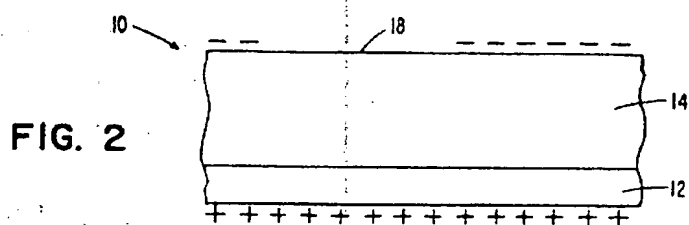
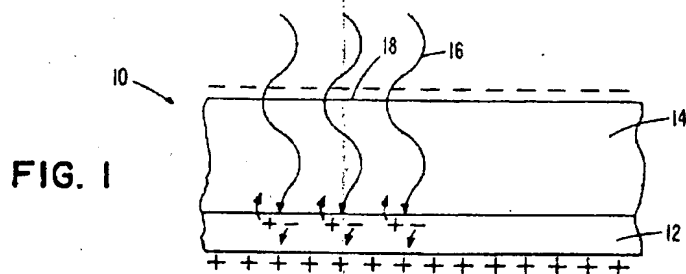
脂（PE-200）、6.75グラムのポリカーボネート樹脂（M-60）及び13.5グラムのp-ジエチルアミノベンズアルデヒド（ジフェニルヒドラゾン）の溶液から電荷輸送層を被覆することにより、多重層電子写真部材を調製した。例1に述べた様に試験したところ、部材を-800ボルトの暗所電圧から-300ボルトまで、454ミリ秒の放電応答時間で放電させるのに、2.0マイクロジュール/cmの光エネルギーが必要であつた。上に挙げた例から、この発明のp形電荷輸送系がいろいろな種類の樹脂結合剤並びにここに挙げた様な種類の相当数のヒドラゾン化合物と共に作用し得ることは明らかである。有機及び無機の両方の電荷発生層がこの発明の電荷輸送層と共に使うのに適しており、従来公知の様に、溶媒、重合体結合剤等の種々の組合せを使うことが出来る。比較的高い濃度で使つた時、或るヒドラゾンは結晶化を生ずる傾向があり、この為電荷輸送作用が劣化する。然し、使う量を減らせば有効な結果が得られる。こういう調整は当業者が容易に行なうことが出来る。

この発明の電荷輸送層を用いた電子写真部材はいろいろな温度で、感度、特に低温に於ける感度、隣接層に対する接着剤並びに物理的な耐疲労性の釣合いがうまくとれている。部材は経年変化も良好で、トナーの膜化に対し著しい抵抗力を持つことが判つた。

図面の簡単な説明

第1図はこの発明の好ましい実施例の電荷発生層及び電荷輸送層を示す簡略断面図で、化学放射に対して負に帯電した部材を露出した時の応答を例示している。第2図は第1図と同様な図であるが、部材の表面上に生ずる負の電荷を示している。第3図は第1図と同様な図で、正に帯電した部材を示している。第4図は第2図と同様な図で、正に帯電した部材の表面上に生ずる正の電荷を示している。

12……電荷発生層、14……電荷輸送層。



昭和53年特許願第109888号(特公昭55-42380号、昭55. 10. 30発行の特許公報6(2)-48〔48〕号掲載)については特許法第64条の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。

特許第1283674号

Int. Cl. 4 識別記号 庁内整理番号
G 03 G 5/04 112 7381-2H
H 01 L 31/08 7733-5F

記

1 「特許請求の範囲」の項を「1 導電層と、科学放射にตอบสนองして電子と正孔の対を発生する電荷発生層と、該電荷発生層に隣接するp形電荷輸送層とを有し、該電荷輸送層は、p-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)、O-エトキシ-p-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)、O-メチル-p-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)、O-メチル-p-ジメチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)、p-ジプロピルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)、p-ジエチルアミノベンズアルデヒド(ベンジルフェニルヒドラゾン)、p-ジブチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)及びp-ジメチルアミノベンズアルデヒド(ジフェニルヒドラゾン)よりなる群から選ばれた1つであり、更に重合体結合剤を有し、電荷発生層に於ける光電現象によつて発生された正孔を電荷輸送層の中を輸送して、材料の帯電面の局地的な選択的な放電をし易くした電子写真材料。」と補正する。

昭和53年特許願第99949号(特公昭58-24785号、昭58. 5. 23発行の特許公報6(2)-26〔206〕号掲載)については特許法第64条の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。

特許第1283833号

Int. Cl. 4 識別記号 庁内整理番号
G 03 G 15/04 6830-2H

記

1 「特許請求の範囲」の項を「1 一様帯電された記録媒体面上に静電潜像を形成するための潜像形成装置を少なくとも2組備えた電子写真式複写プリンタであつて、第1番目の潜像形成装置は該装置により露光した受光部においても第2番目の潜像形成装置が書き込み可能な表面電位を残して上記記録媒体面上の電荷を除去し次いで残る電荷を第2番目若しくは第2番目以降の潜像形成装置で除去することにより静電潜像を形成するように構成したことを特徴とする電子写真式複写プリンタ。
2 記録媒体として光導電体を用い、第1および第2潜像形成装置として各々露光型複写記録装置および記録書き込み用光学装置を具備したことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の電子写真式複写プリンタ。」と補正する。